

伊予市地域包括支援センターだより

いきいき通信

NO.21

認知症を正しく理解しましょう

最近、テレビのドキュメンタリー番組やドラマでも取り上げられるようになり、身近なところでもよく耳にするようになった「認知症」。

しかし、「認知症を正しく理解している」とはつきり言える人は多くないのではないのでしょうか。

認知症と聞くだけで悲観的に捉えがちですが、正しく理解し、適切な対応をとることで、認知症と向き合うことができ、その人らしい生活を続けていくことができます。

認知症とは…

認知症とは、病気等ならんらかの要因で一度獲得した知的能力(記憶、認識、判断、学習など)が著しく低下し、自立した生活が困難になる状態のことをいいます。

厚生労働省の調査によると、認知症の出現率は65歳以上の高齢者で約9%。年齢とともに上昇し、85歳以上では約25%と、4人に1人が何らかの認知症の症状を示しており、認知症は身近なものだといえます。

認知症を引き起こす原因

- 変性疾患…脳の神経細胞がゆっくりに死んでいく病気。アルツハイマー病、ピック病、レビー型小体病など
- 脳梗塞、脳出血など
- 身の周りの環境の変化

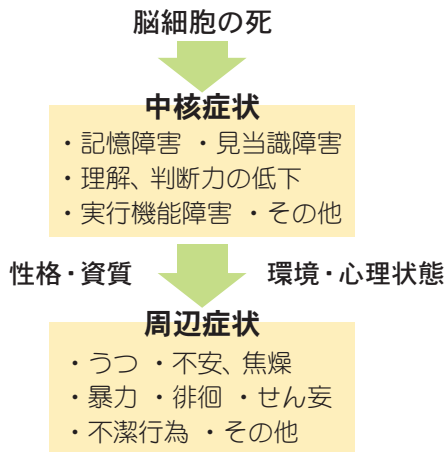
認知症の症状

- 脳細胞の死による中核症状
- ・記憶障害…新しいことが覚えられない。
- ・見当識障害…時間や季節の感覚が薄れてくる。方向感覚を失い迷子になることも。
- ・理解、判断力の障害…理解力が低

下し、ささいな変化で混乱する。道具や機械の使い方が分からなくなる。実行機能障害…計画を立てて実行することが難しくなる。

- ・感情表現の変化…その場の状況が読めず、予想していない反応を示す。

○本人の性格、環境、人間関係などが要因となる周辺症状



認知症と向き合うために

認知症の症状に、最初に気付くのは本人です。もの忘れや、今まで難なくできていたことを失敗することが増え、自分の身に何か起こっているのではという不安を感じ始めます。その後、うつになる人、周囲の人を疑って妄想的になる人など、それぞれの症状が現れます。認知症

になったのではという不安から心を閉ざしたり、暴言を言ったりすることがありますが、これは、自分の心を守るための自衛反応なのです。

認知症になった人は、自分の障害を支える方法が分からなくなります。その際、必要なのは、認知症を正しく理解し、さりげなく援助をしてくれる「人」なのです。

認知症と向き合い、支えていくためには、認知症に対する正しい理解と、心をバリアフリーにしてそれを受け入れる心構えが大切です。

また、状態が人によって違うように、支える方法もさまざまです。身近な人たちだけで抱え込まないようすることも大切です。お近くの在宅介護支援センターや地域包括支援センターなど、専門家に相談し、適切なアドバイスをもらいましょう。



伊予市地域包括支援センター

(伊予市役所1階長寿介護課内)

☎982-1111(内線544-555)